

SELinux Policy Editor(seedit) インストールガイド 2.0

中村 雄一*

July 5, 2006

Contents

1	動作環境	2
2	RPM から導入	2
3	ソースからのインストール方法	3
4	何が影響されるか?	4
5	動作確認	4
5.1	GUI で動作確認	4
5.2	コマンドラインで動作確認	5
5.3	次は何をする?	5

*himainu-ynakam@miomio.jp

このドキュメントは、SELinux Policy Editor のインストール方法を解説しています。

1 動作環境

Fedora Core5 および Cent OS 4.3 での動作を確認しています。開発は、Fedora Core5 ベースで行っています。

2 RPM から導入

RPM パッケージを使うことで簡単にインストールできます

- (1) 必要なパッケージ
checkpolicy,audit パッケージが必要です。以下でインストールしておきます (CentOS ではデフォルトで入っています)。

```
# yum install checkpolicy audit
```

- (2) ファイルを入手
以下より、seedit-converter,seedit-policy,seedit-doc, seedit-gui パッケージを入手します。X Window System が入ってない場合は、seedit-gui はダウンロードしません。

```
http://selpe.sourceforge.jp/download_jp.html
```

ファイル名は、seedit-converter-2.0.0.(ディストリビューション名).i386.rpm, seedit-policy-2.0.0-(ディストリビューション名).i386.rpm, seedit-gui-2.0.0-1.noarch.rpm,seedit-doc-2.0.0-1.noarch.rpm となっています。

seedit-converter には、Simplified Policy を SELinux のポリシに変換するツールと、Simplified Policy 管理ツールが同梱されています。seedit-policy には、simplified policy が格納されています。seedit-gui は、GUI です。

- (3) rpm パッケージをインストール
入手した rpm パッケージを以下のようにインストールし、リポートします。

```
$ su -  
# rpm -ivh seedit-*.rpm  
# reboot
```

- (4) 初期化
再起動時、ファイルのラベルが自動的に付与され直されます。数分かかります。その後、リポートされます。Fedora Core 5 の場合、さらにもう一度リポートがかかります (途中で画面が青くなっても問題はありません)。無事ログインできたら、完了です。

なお、auditd サービスが起動するようになっていきます。これは詳細な SELinux のログを /var/log/audit/audit.log に取ることができ、ポリシ自動生成機能をより便利に使うために必要ですので、このサービスは有効にしておくことを強く薦めます。

(5) CentOS 4 の注意点

CentOS 4 の SELinux パッケージに含まれるラベル初期化コマンド (fixfiles) のバグにより、初期化がうまくいかないことがあります。具体的には、「今までに streit ポリシーを使ったことがある」または「RBAC を有効にしたことがある」場合は、以下のコマンドで初期化する必要があります。

```
# setfiles /etc/selinux/seedit/contexts/files/file_contexts / -F -vv
# reboot
```

(6) インストールは終わりです

インストールされているか確認するには、5 章を参照してください。

(7) アンインストール方法

アンインストールは簡単です。

```
# rpm -e seedit-policy seedit-converter
# reboot
```

再起動時、SELinux の targeted policy (Fedora Core デフォルト) の、permissive モードで起動します。

3 ソースからのインストール方法

(1) ファイル入手

seedit-converter-2.0.0.tgz and seedit-policy-2.0.0.tgz, seedit-gui-2.0.0.tgz を以下からダウンロードします。

http://sourceforge.net/project/showfiles.php?group_id=135756

(2) コンパイルとインストール

```
# tar czvf seedit-*.tgz
# cd seedit-converter
# make install DISTRO=(FC5 または COS4)
# cd ..
# cd seedit-policy
# make install DISTRO=(FC5 または COS4)
# cd ..
# cd seedit-gui
# make install
# touch /.autorelabel
# reboot
```

- (3) 初期化ログインしたら、以下のコマンドで初期化作業を行います。

```
#restorecon -R /etc
#seedit-load -v
#chkconfig auditd on
#/etc/init.d/auditd start
#reboot
```

seedit-load コマンドは、SPDL で書かれたポリシー (Simplified Policy) を、SELinux のポリシーに変換し、カーネルに読み込ませたり、ファイルとタイプの関連付けを直したりするコマンドです。このコマンドを入力することで、自分のシステムに合わせたポリシーを生成してくれます(このコマンドを入力する前は、rpm パッケージ開発者の環境に適したポリシーが生成されています。)

- (4) アンインストール
次のようにして、Fedora Core デフォルトの状態に戻ることができます。
/etc/selinux/config を以下のように編集します。

```
SELINUXTYPE=seedit
-->
SELINUXTYPE=targeted
```

次のコマンドを入力し、再起動します。

```
#touch /.autorelabel
#reboot
```

4 何が影響されるか？

インストールによって、/etc/selinux/config が以下のように編集されます。

```
SELINUX=permissive
SELINUXTYPE=seedit
```

それ以外は、既存のシステムに影響を及ぼしません。

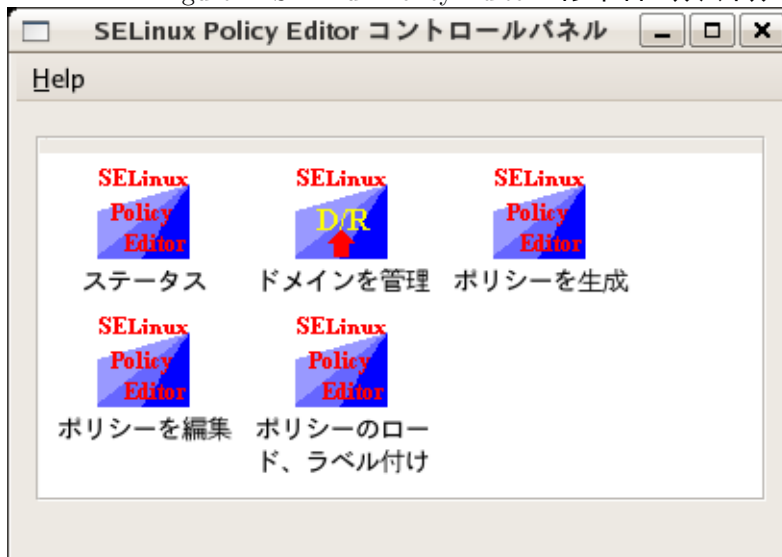
5 動作確認

seedit が正しくインストールされているか否かは、GUI およびコマンドラインから確認可能です。

5.1 GUIで動作確認

Gnome のメニューから、デスクトップ → 管理 → SELinux Policy Editor、を選択します。root ユーザーのパスワードを入力すると、図 1 のような画面が現れます。ここから、ステータスを選択すると、図 2 のような画面が現れます。seedit がインストールされている？ はいと表示されればインストールは成功です。

Figure 1: SELinux Policy Editor コントロールパネル



5.2 コマンドラインで動作確認

次のような出力になれば成功です。

```
# sestatus
SELinux status:                enabled
Current mode:                   permissive
Mode from config file:         permissive
...
Policy from config file:       seedit
```

「Policy from config file: seedit」となってます。

5.3 次は何をする？

どうやって設定をしていくかの詳細は「SELinux Policy Editor 管理ガイド (マニュアル)」を参照してください。また、インストール直後は、Permissive モードになっていることに気を付けます。Permissive モードでは、SELinux はシステムを守ってくれません。実運用時はどうするかについても、管理ガイドに載っています (Enforcing モードに切り替えます)。

Figure 2: Status

